

わたしは出不精である。したがって海外出張は極力避けている。しかし、不思議な御縁で、北米神経科学会・SfN (Society for Neuroscience)にご招待いただいた。SfNova レクチャーという今年から始まったレクチャーシリーズへの登壇である。Super Nova (超新星) と SfN を掛けた造語のようで、これから来るかもしれない Early~middle キャリアの研究者が 2 名選ばれる。大した業績もない私ごときが選ばれるのも、光栄というよりも申し訳ないなという気持ち、おそらく Diversity などの理由なのだろうなという複雑な気持ちが混じりあう。しかし SfN のプログラム委員会で推薦くださった先生方のために、しっかりと自分たちの仕事の価値をプレゼンすることが責任であると考え、謹んでお受けすることにした。出不精な私にとって、SfN は 6 年ぶりの参加である。せめてもの幸いは開催地が San Diego であるという点である。SfN 規模の学会を開催できる会場は全米広しと言えども限られており、最近では DC か Chicago か San Diego である。大変申し訳ないが、DC も Chicago も、暗くて、寒くて、きつくて、辛いという印象しかない。その点、南カリフォルニアの SD は開催地としては最高である。

さて渡航のために 4 回目の COVID-19 のワクチンも打ち、切れていた Passport も更新し、久しぶりの海外旅行にヨチヨチ行くのである。Seattle 乗り換えで、ここでイミグレである。例の如く、長蛇の列で、これ乗換便に間に合うのか？というくらい待たされた。いつも思うのだが、イミグレで聞かれる質問に何の意味があるのか？と本気で謎。大抵、どうでも良いことしか聞かれない。今回は、これまでの渡米の中でも最もどうでもいい質問をされた。旅の目的など普通の内容を聞かれた後に、、、、

Inspector : What's in your luggage? Any food?

Me: A few ramen noodles.

Inspector: What's the favor?

Me: Szechuan taste.

Inspector: Is that your favorite? Is that spicy?

Me: Yes. A bit.

Inspector: Oh, good! I love it!

ここは、イミグレである。四川担々麺の味付けなど、本気で“The most どうでもいい質問”である。こんな会話のために長蛇の列を長々と待たねばならぬ理不尽に、あー、これこそ United States ! と懐かしさすら込み上げる。そうこう

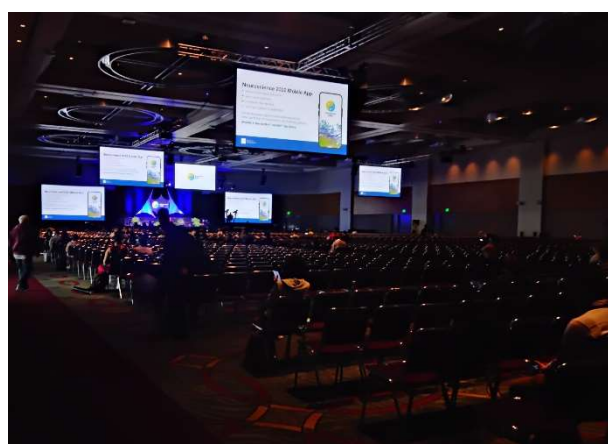


しているうちに、無事に乗換便に乗ることもでき、青白く輝くロッキー山脈の色合いを、飽きもせず3時間見続け、キラキラと煌めく雪が茶色に変ってきたら、太陽の街・San Diegoはもう目前である。11月なのに暖かく、開放的で陽気な港町である。カンファレンスセンターはボートハーバーの隣であり、会場の目の前を井ノ口馨先生とお散歩した(前ページ)。めっちゃ癒される。

さて、せっかく来たので、まじめに学会活動をする。やはりコロナ禍の影響は残っているようで、SfN2022参加者は23000人弱である(右図)。以前より1万人少ない。たしかに普段より少なく感じるが、それでも流石SfNである。人、人、人、それなりに賑わっている。Poster会場が異常に広いのは相変わらずで、AM帯、PM帯と2回歩き回ると、相当な運動量である。まじめに回ってみたが、特に目新しいものがあるわけではないが、Posterのレベルは高いものが多い。

NEUROSCIENCE 2022 ATTENDANCE			
REGISTRATION CATEGORY	IN PERSON	VIRTUAL ONLY	TOTAL
Member	6261	514	6775
Postdoc Member	2963	153	3116
Student Member	7926	348	8274
Nonmember	934	154	1088
Student Nonmember	431	72	503
Workshop Only Member	5	N/A	5
Workshop Only Nonmember	5	N/A	5
Scientific Subtotal	18525	1241	19766
Guest	267	N/A	267
Exhibitor	3001	N/A	3001
Exhibitor Guest	345	N/A	345
Press	117	N/A	117
Other	383	N/A	383
Grand Total	22638	1241	23879

人様の研究成果の見物だけでなく、自分の発表の準備もある。会場の下見をしてイメトレをするのが自分ルーチンだ。自分のRoomは、Ballroom 20。Ballroomとか言われても嫌な予感しかない。案の定、一番広い部屋である(右図)。流石にこの広さは初めてであり、控えめに言って、武者震いするレベルである。そのBallroomで先にプレゼンしていた、Ginaさんの講演を拝聴(↓)。



Sleep for Cognition, Memory, and Mental Health in Females and Males Across the Lifespan

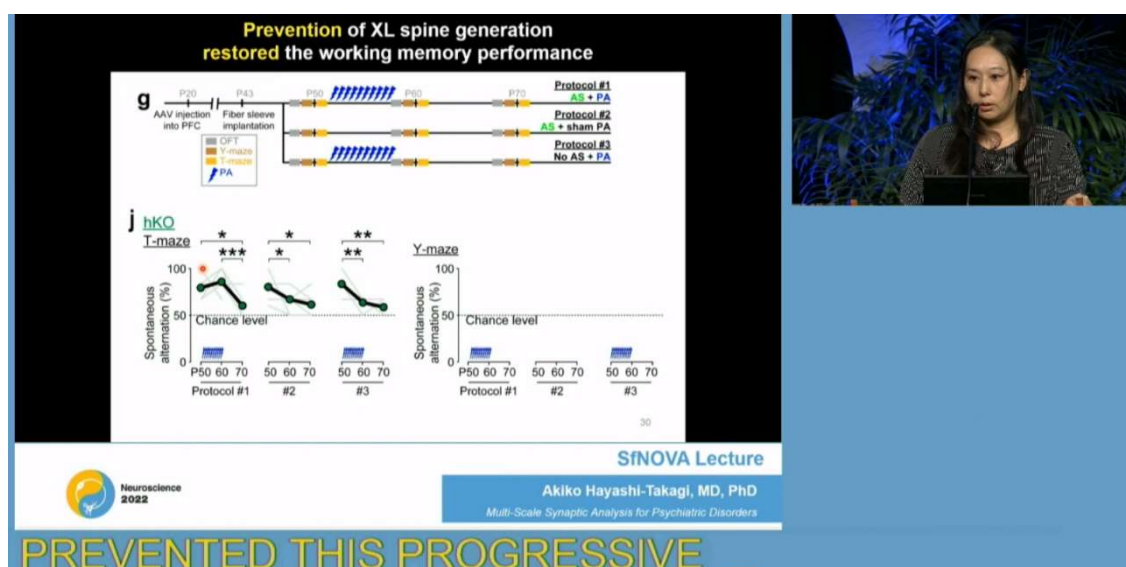
Gina R. Poe, PhD / University of California, Los Angeles

Saturday, November 12, 1-2 p.m. PST

Theme F — Integrative Physiology and Behavior

Every animal sleeps or dies. We will review essential features of sleep that make it irreplaceable for cognition, memory, and mental health, exploring how sleep changes across the hormonal cycle and the lifespan. We will discuss cleaning, growth, and repair functions of slow wave sleep, memory transfer mechanisms during sleep spindles, the potentiation power of P-waves, and circuit remodeling during REM sleep. Finally, we will talk about neurological and mental health conditions affected by variations in sleep features.

睡眠の時の神経活動と様々な Neurotransmitter の変動、記憶などの Output との関連についてお話されていた。特筆すべきは、その陽キャ全開のプレゼンである。自らの研究成果を突然アカペラで歌いだすのである。♪せとろに～ん いんじゅ～～す れるていーでい～ (Serotonin induces LTD) という感じで、何かの替え歌で自分の研究成果発表である。歌い終わると、当然、拍手喝采である。Gina さんの勢いはそれだけに留まらず、「次の曲は一緒に歌いましょう」と聴衆を立たせ (Ballroom のほとんどの人が Standing である!)、さあ、皆さんで歌いましょう! という具合である。♪トウ ら～ん えっふいしえんとり～ (To learn efficiently) ♪。私にとって最も驚くべきことは、Gina さんのサイエンスのコンテンツそのものは大したことは何も言っていない (すみません)。しかし、本当に楽しそうにプレゼンしているのを見て、何かが自分の中で弾けたような気がした。最近、自分はサイエンスを楽しむというよりも、義務や責任、プレッシャーに駆られて、常に追い立てられるようにサイエンスをしていたことに気付く。本来の姿ではなかった。サイエンスを楽しむことが必要であるし、サイエンスとは本来そのような性質のものだ。彼女のプレゼンを聞いて、気持ちが軽くなるのを感じた。自分も楽しくプレゼンしよう。



すっかり気分は軽くなったので、ほとんど緊張することなく終了 (↑) リアルタイムに字幕までつけて下さる親切運営である。私の下手な英語を瞬時に Dictation できることに感心する。最後は質問コーナーで終了 (右図)。サイエンスの内容に対する質問から、実験トラブルシューティングに関する



General な質問までありました。とっても疲れたけれど、達成感がありました。一人でも多くの研究者が、スパインの体積分布の重要性に気付いてくれることを祈りつつ、5 日の San Diego の旅は終わりを告げました。楽しかったけれど、来年は DC らしいので、パスかな。